

(電子メール施行)

農技第 1214 号

平成 26 年 7 月 16 日

各関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

病虫害発生予察防除情報 第 1 号を発表しました。

県南部地域で、葉いもちの発生を確認しています。水田内に入って発病状況を観察し、いもち病の発生が多い地域では、速やかに防除の徹底をご指導願います。

平成 26 年度 病虫害発生予察防除情報 第 1 号 いもち病 (葉いもち・穂いもち) の防除対策について

- 1 対象作物 イネ
- 2 病虫害名 いもち病 (葉いもち・穂いもち)
- 3 発生地域 阪神北、東播磨、北播磨、中播磨、西播磨
- 4 発生程度 平年並
- 5 発生状況について
 - (1) 農業改良普及センター、病虫害防除員による発生状況調査で、県南部地域のヒノヒカリを中心に葉いもちの発生が確認されたため、全県的な現地確認調査 (30 地点 246 ほ場、7 月 3 日～7 月 11 日) を実施した。その結果 4 地点 9 ほ場で本病の発生を確認した。県全体の発生は平年並みであるが、県西部の一部地域において急性型病斑が多数認められたことから注意が必要である。
 - (2) BLASTAM (葉いもち発生予察システム) による感染好適条件が 6 月 30 日～7 月 7 日に但馬、丹波、県西部地域で出現している。
 - (3) 本病に対する箱施用薬剤は施薬後、概ね 2 か月程度で効果が低下することから、今後の気候条件によっては葉いもちの多発の恐れがある。また、上位葉で病斑が認められるほ場では、穂いもちの発生が懸念される。

6 発生予想について

7 月 10 日発表の近畿地方 1 か月予報によると、期間の前半は、気温は平年より高く、降水量は平年並または多く、日照時間も平年並または少ないと予想されている。したがって今後も感染しやすい気象条件が続くと予想される。

また、稲体が低温・日照不足に遭遇するといもち病に対する抵抗力が低下することから、病斑が認められたほ場で 7 月下旬以降に葉いもちの多発、また上位葉に発病が認められた場合は、穂いもちの発生が予想される。

このため、BLASTAM (葉いもち発生予察システム) の情報を確認するとともに、ほ場での観察を徹底する。

※兵庫県立農林水産技術総合センターホームページ上で BLASTAM によるいもち病の感染好適日の情報を提供 (<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/blastam2014.htm>)

7 防除対策について

ほ場によって葉いもちの発生程度が大きく異なるので、葉色の濃い箇所や日当りの悪い箇所など水田内に入ってよく観察し、いもち病が発病していないかを確認すること。多発している場合は、以下の対策を実施する。

- (1) 治療効果の高い薬剤であるカスガマイシン・フサライド剤（商品名 カスラブサイド粉剤 DL 等）、フェリムゾン・フサライド剤（商品名 ブラシン粉剤 DL 等）等で防除する。
- (2) 薬剤を散布する際は、無人ヘリコプターによる空中散布薬剤を含めて使用時期（収穫前日数）や使用回数等の使用基準を遵守すること。
- (3) 薬剤については、兵庫県農薬情報システム等を参考に選定し農薬使用基準を守ること。

兵庫農薬情報システム (<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222
